

出雲家庭医療学センター
感染症フェローシッププログラム
Ver1.0

出雲家庭医療学センター

出雲市民病院家庭医療科

出雲家庭医療学センター感染症フェローシッププログラム

【目次】

- ・ プログラムの背景
- ・ プログラムの概要
- ・ 対象
- ・ 研修期間
- ・ 研修施設
- ・ 指導医
- ・ アウトカム
- ・ 研修中の課題と評価
- ・ 教育方略
- ・ 処遇
- ・ 応募方法
- ・ 参考文献

**後期研修修了の
その先へ！**

【プログラムの背景】

「レジデントのための感染症診療マニュアル」の初版が出版されたのが 2000 年。以後、日本の感染症診療は特に若手の中で爆発的なムーブメントとなった。約 20 年が経過したがまだ日本のすべての医療機関に感染症科が存在している訳ではなく、初期研修、後期研修において感染症診療を指導できる指導医に師事できた医師は多数派とは言えない可能性がある¹⁾。そういった現状は、家庭医療後期研修・総合診療専門研修後の医師が一般的な感染症診療のスキルアップに対する潜在的ニーズの存在の裏付けとなる。

出雲市民病院家庭医療科感染症フェローシッププログラムが目指すものは、決して感染症専門医の高いレベルではなく、家庭医、総合診療医として中小病院で遭遇する一般的な感染症に質の高い診療を行う事である。

【プログラムの概要】

中小病院における一般的な感染症診療に関して知識・診療技術の向上を獲得する事を目指す 2～3 年間の教育プログラムである。既存の学会の認定制度とは関連は無いが、インフェクションコントロールドクター(ICD)の資格申請につながる^{2,3)}。

出雲市民病院家庭医療科に所属し、中小病院の家庭医療を実践しながら一般的な感染症診療について学び、実践できるレベルへの到達を図る。感染症に関するリサーチを合わせて行い、研究に関する研鑽も行う。前述に関しては教育プログラムを提供するが、家庭医療・総合診療の研鑽は特に教育プログラムとしては提供せず On the Job Training で行う。

【対象】

家庭医療後期研修、あるいは総合診療専門研修修了後の卒後 15 年目以内の医師。

【研修期間】

2 年間～3 年間

【研修施設】

出雲医療生活協同組合 出雲市民病院（〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1536-1）

【指導医】

高橋賢史(プログラムディレクター): 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医
インフェクションコントロールドクター(ICD)

【アウトカム】

1. 丁寧な診察に基づく適切な感染症の診断の元、グラム染色、培養等適切な細菌検査を活用し、起因菌を推定して適切な抗菌剤を選択し正しい用法用量で投与する。また、治療開始後の状態を評価し適切な抗菌剤投与期間を設定し、培養・感受性結果を踏まえた適切な抗菌スペクトルの de-escalation や内服へのスイッチを行うといった内容を Common な細菌感染症診療において実践できる。具体的には下記の 10 領域の事例を取り扱う。

- ① 肺炎の入院治療
- ② 肺炎の外来治療
- ③ 膀胱炎の外来治療
- ④ 急性腎盂腎炎の治療
- ⑤ 感冒・感冒関連疾患(急性副鼻腔炎, 中耳炎, 咽頭炎)の治療
- ⑥ 皮膚・軟部組織感染症の治療(例: 蜂窩織炎, 丹毒)
- ⑦ 菌血症の治療
- ⑧ 細菌感染症との鑑別を要した非感染性炎症疾患の診断治療(例: 偽痛風)
- ⑨ 腸管感染症(例: 大腸炎, 憩室炎)の治療
- ⑩ 胆道感染症の治療

2. 第1選択抗菌薬が使用できない場合の, 代替案を提示・実施できる.

3. ICT 活動に参画できる.

【研修中の課題と評価】

ケースレポートとリサーチ報告書の提出を課題とする. 指導医による On the Job Assessment ならびにレポートの俯瞰によるフェローのパフォーマンス評価を行う.

1. ケースレポート

前記の指定 10 領域より 15 例のケースレポートを作成する. 全領域より 1 例以上を必須とし, 肺炎, 急性腎盂腎炎, 菌血症, 感冒に関しては 2 例以上を提出する. 記載する内容は, 病歴, 診察所見, グラム染色評価, 起因菌の推定, 抗菌薬の選択, 推定 CCr の計算, 用法用量の選択, 抗菌療法開始後の評価, de-escalation, 内服への切り替えについて含まれている必要がある.

2. リサーチ

肺炎の喀痰グラム染色データ, 血液培養汚染率, 大腸菌の薬剤感受性, その他, の中から1つテーマを選択しデータをまとめ報告書を作成する. リサーチとして実施し, 実施計画書作成, 倫理委員会への倫理申請, 報告書作成を行う. 必要に応じて無料統計解析ソフト EZR⁴⁾使用の指導を指導医より行う.

【教育方略】

1. 教育コンテンツ

①オリエンテーション

研修カリキュラムの説明を行う.

当院電子カルテ等診療ローカルルールについて説明を行う.

感染症診療に関するレクチャーを行う. (フェローの初期評価を含める.)

②On the Job Training

家庭医療科の一員として診療に従事しながら感染症罹患患者の診療を行う。

感染症症例の診療にあたっては、診察所見、グラム染色評価、起因菌の推定、抗菌薬の選択、推定 CCr の計算、用法用量の選択、抗菌療法開始後の評価、de-escalation、内服への切り替えを行う。原疾患に並行してのリハビリテーション処方を行う。

グラム染色を活用する。検査室へ行き、理解が深まるまでは自分で染色と検鏡を自ら実施する。合わせて検査技師、指導医とのディスカッションを行う。グラム染色の検鏡写真はデジカメやスマートフォンで撮影し記録に残す。

ICT のメンバーとして加わり、毎週木曜日の ICT 活動を行う。

③OFF the Job Training

ICD 講習会への参加

近隣病院で開催される勉強会への参加

連携施設 ICT 合同カンファレンスへの参加(島根大学病院, 出雲市立総合医療センターが参加)

④振り返り

3 ヶ月毎に指導医との振り返りを行い、研修・課題の進捗状況の確認、指導医からのフィードバックを行う。

2. 研修中の duty

内科部門における外来・入院患者の診療を行い、中小病院の家庭医療の実践を行う。

担当患者は感染症症例に限らず、家庭医・総合診療医として Common problem に対応する。

毎週水曜日午後は病棟カンファレンスを開催しており参加し担当患者のプレゼンテーションを行う。

当院の病棟カンファレンスは医師、看護師、セラピスト、MSW が参加するリハビリテーションカンファレンスとして実施し、各職種からの情報共有、治療方針確認、退院支援を行うものである。

週 1-2 単位程度の外来、救急外来を担当する。

院内感染対策講習での教育を担当する機会を持つ(最大年 2 回)。

毎週水曜日時間外の家庭医療セミナーに参加する。

専攻医、初期研修医、学生、他職種の教育を行う。

3. 週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来			外来		
午後		救急外来	病棟カンファ	ICT	救急外来	
時間外			家庭医療セミナー			

※空きコマは病棟診療やオプション研修を組み込む。

【処遇】

出雲市民病院常勤医師として採用し、給与・賞与・諸手当等は法人規定に従う。当法人は育児支援制度(時短勤務や時間有給の取得)、院内保育園も有している。

社会保険は、健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険、医師賠償保険に加入しており、法人の共済会による各種助成制度もある。

研鑽に対する支援として、学会・研修会参加に関する補助は年 2 回まで、DynaMed 購読料に対する補助を行う。

【応募方法】

出雲市民病院・出雲家庭医療学センター事務局 足立祐貴

〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1536-1 出雲市民病院

TEL:0853-21-2722 FAX:0853-21-8101

E-mail: igakusei.icfm@izumo-hp.com

【参考文献】

- 1) 岩田健太郎. レジデントのための感染症診療マニュアル第 3 版に対する書評. 医学書院.
<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=84707>
- 2) ICD 協議会. インфекションコントロールドクター(ICD)制度規則(平成30年12月28日改正).
<http://www.icdjc.jp/kisoku.html>
- 3) ICD 協議会. ICD 制度規則施行細則(平成30年12月28日改正).
<http://www.icdjc.jp/saisoku.html>
- 4) KANDA, Yoshinobu. Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics. Bone marrow transplantation, 2013, 48.3: 452.

本パンフレットの著作権は出雲家庭医療学センターに帰属します。
無断転用を禁じます。

Copyright (C) 2019 The Izumo Centre for Family Medicine All Rights Reserved.